

白浜で「小さな幸せ」を歌う

岡本俊夫

「小さな幸せ」の編曲者、富岡 健さんは、長い間の「一万人の第九」指導を通じ、彼を慕って集まつた人たちをメンバーとした「大阪コンソート」の主宰者です。それが、団員約90人の大きな混声合唱団に育ちました。

彼から、白浜バプテスト教会へ一緒に行きませんか、と誘われたのは、今年6月の日曜礼拝が終わって、二人で話をしている時でした。

この曲は、NHKスペシャル「無縁社会」の中で、白浜バプテスト教会の聖歌隊によって歌われたものです。富岡さんはこの歌に感動して、作者の谷本智子さんの快諾を得て合唱曲に編曲、広く日本中で歌われて、人の心が温かさでつながることを願い、楽譜まで出版されました。その上、楽譜の売り上げ20%を、NPO法人「白浜レスキューネットワーク」に支援金として贈ることを決められたのです。

彼は、この支援金を送金すれば簡単ですが、どうしてもこのNPO法人の主宰者であり、白浜バプテスト教会の牧師である、藤藪さんに直接手渡したいという熱い思いがあったのです。そして12月14日（土）、朝、富岡さんと「大阪コンソート」のメンバー約40人と、クローバークラブの山岡義明さん（日本バプテスト大阪神愛教会役員）と小生は、チャーターしたバスで白浜に向かいました。バスの中にも、キーボードを持ち込み練習、運転手さんも揺れないように運転にも細心のハンドルさばきで協力をしてくれました。夜は、親睦の宴会、かくし芸の連続、わざわざ安来まで行ってマスターした絶品の「安来節」も飛び出して、和気あいあい、エネルギーにあふれた夜でした。

翌15日（日）、丘の上の住宅地の中にある「白浜バプテスト基督教会」へ到着。午前10時からの礼拝の中で「小さな幸せ」が歌われると、閉じている目から涙が頬を伝わる人、ハンカチを取り出して目頭を拭う人、目を見開いて涙を拭おうともしない人・・・私も一緒に歌いながら声が詰まってしまいました。それほどこの教会の人たちは、この曲に深い思い入れがあるのだという感動がこみ上げてきました。そして、先週この教会で洗礼を受けた若いMさんの、自分の信仰に至る道を「証し」として語った、「今年の5月、三段壁で、この世に別れを告げようとして果たせず、この教会に世話をになり今がある」という話にも感激しました。



左から：藤藪牧師、作詞・作曲の谷本智子さん、編曲の富岡健さん



富岡さんの指揮で「小さな幸せ」を歌う大阪コンソートの皆さん。

うグループ』という会を結成し、また来ます、と約束してしまいました。彼のことだから、この望みも、曲を全国に紹介したいという強い望みもきっと実現することでしょう。

今回の訪問は非常に意義深いものであり、私にとっても、何時までも心に残る2日間でした。「ほんとは大きな喜び」に感謝。

NPO法人「白浜レスキューネットワーク」では、つきの品物を必要としています。

*タオル、*洗面用具、*衣類（再就職時に着るスーツ等も）、皆さまのご協力をお願いします。詳細は岡本さんまで、